

提出締切：2025 年 12 月 23 日 午前 9:00

**授業内問題 7.1** 集合  $X, Y \subseteq \mathbb{R}^d$  が凸であるとき、それらの共通部分  $X \cap Y$  も凸であることを証明せよ。

**授業内問題 7.2**  $\mathbb{R}^3$  における 3 つの点

$$\mathbf{p}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_2 = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_3 = \begin{bmatrix} -5 \\ -2 \\ 4 \end{bmatrix}$$

に対して、集合  $P = \{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3\}$  のアフィン包  $\text{aff}(P)$  を考える。

1.  $\text{aff}(P)$  の次元を求めよ。
2. 小問 1 で求めた次元を  $k$  とする。ある行列  $A \in \mathbb{R}^{(3-k) \times 3}$  とベクトル  $\mathbf{b} \in \mathbb{R}^{3-k}$  を用いて、 $\text{aff}(P) = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{b}\}$  という形で  $\text{aff}(P)$  を記述せよ。

**復習問題 7.3** 行列

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & -2 \end{bmatrix}$$

を用いて、 $\{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{0}\}$  と書ける  $\mathbb{R}^3$  の線形部分空間  $X$  を考える。この  $X$  の次元と  $X$  の基底を 1 つ答えよ。

**復習問題 7.4** 行列

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & -1 & 2 & 4 \\ 0 & 2 & 4 & -2 & -3 \end{bmatrix}$$

を用いて、 $\{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^5 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{0}\}$  と書ける  $\mathbb{R}^5$  の線形部分空間  $X$  を考える。この  $X$  の次元と  $X$  の基底を 1 つ答えよ。

**復習問題 7.5** 行列

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & -2 \end{bmatrix}$$

とベクトル

$$\mathbf{b} = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}$$

を用いて、 $\{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{b}\}$  と書ける  $\mathbb{R}^3$  のアフィン部分空間  $X$  を考える。

1.  $X$  の次元を答えよ。
2.  $X$  を「ある線形部分空間  $W$  をベクトル  $\mathbf{t}$  だけ平行移動させたもの」として書くとする。この記述に当てはまる  $W$  と  $\mathbf{t}$  を 1 組答えよ。ただし、 $W$  はその基底の線形包として表すこと。

**復習問題 7.6**  $\mathbb{R}^3$  における 4 つの点

$$\mathbf{p}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_2 = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_3 = \begin{bmatrix} 5 \\ 1 \\ -2 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_4 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

に対して、集合  $P = \{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3, \mathbf{p}_4\}$  のアフィン包  $\text{aff}(P)$  を考える。

1.  $\text{aff}(P)$  の次元を求めよ。
2. 小問 1 で求めた次元を  $k$  とする。ある行列  $A \in \mathbb{R}^{(3-k) \times 3}$  とベクトル  $\mathbf{b} \in \mathbb{R}^{3-k}$  を用いて、 $\text{aff}(P) = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{b}\}$  という形で  $\text{aff}(P)$  を記述せよ。

**復習問題 7.7** 行列  $A \in \mathbb{R}^{m \times d}$  とベクトル  $\mathbf{b} \in \mathbb{R}^m$  を用いて、 $X = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^d \mid A\mathbf{x} = \mathbf{b}\}$  と書ける集合  $X$  を考える。この  $X$  が凸集合であることを証明せよ。

**復習問題 7.8** ベクトル  $\mathbf{a} \in \mathbb{R}^d$  と実数  $b \in \mathbb{R}$  を用いて、 $X = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^d \mid \mathbf{a}^T \mathbf{x} \leq b\}$  と書ける集合  $X$  を考える。この  $X$  が凸集合であることを証明せよ。

**復習問題 7.9** 集合  $B = \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^d \mid \sqrt{\sum_{i=1}^d x_i^2} \leq 1 \right\}$  が凸集合であることを証明せよ。(ヒント: 演習問題 7.11 の結果を用いてよい。)

**補足問題 7.10** 点  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^d$  が  $m$  個の点  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \dots, \mathbf{p}_m$  のアフィン結合であるとき、そのときに限り、点  $\begin{bmatrix} \mathbf{x} \\ 1 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^{d+1}$  が  $m$  個の点  $\begin{bmatrix} \mathbf{p}_1 \\ 1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} \mathbf{p}_2 \\ 1 \end{bmatrix}, \dots, \begin{bmatrix} \mathbf{p}_m \\ 1 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^{d+1}$  の線形結合であることを証明せよ。

**補足問題 7.11** 任意のベクトル  $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \in \mathbb{R}^d$  に対して、

$$\left( \sum_{i=1}^d x_{1,i} x_{2,i} \right)^2 \leq \left( \sum_{i=1}^d x_{1,i}^2 \right) \left( \sum_{i=1}^d x_{2,i}^2 \right)$$

が成り立つことを証明せよ。(ヒント:  $\sum_{i=1}^d (x_{1,i} t + x_{2,i})^2$  を  $t$  に関する二次式だと見なし、その判別式を考えてみよ。)

**追加問題 7.12** 集合  $X, Y \subseteq \mathbb{R}^d$  に対して、

$$X + Y = \{\mathbf{x} + \mathbf{y} \mid \mathbf{x} \in X, \mathbf{y} \in Y\}$$

と定義する。 $X$  と  $Y$  が凸集合であるとき、 $X + Y$  も凸集合であることを証明せよ。